

Special Exhibition Gallery [企画展示室] 姫路市制施行130周年記念特別展



チームラボ《世界は暗闇から生まれるが、それでもやさしくつくしい》2018年

4月20日(土) ▶ 6月16日(日)

チームラボ 世界は暗闇からはじまるが、それでもやさしくつくしい

姫路市立美術館リニューールオープン記念、神戸新聞播磨製作センター完成記念、サンテレビ開局50周年記念

集団的創造によって、アート、サイエンス、テクノロジー、デザイン、そして自然界との交差点を模索しているアートコレクティブ・チームラボの個展。彼らのいう「超主観空間」によって創られた《Black Waves: 埋もれ失いそして生まれる》や、インタラクティブな《世界は暗闇から生まれるが、それでもやさしくつくしい》、《永遠の今の中で連続する生と死、コントロールできないけれども、共に生きる》といったアーティスト自らが厳選した作品に、モニター作品《世界は、統合されつつ、分割もされ、繰り返しつつ、いつも違う》を加え、現在進行形の美術表現の深奥に迫ります。

●休館日:月曜日(ただし4/29、5/6は開館) ●料金:一般1400(1200)円/大高1000(800)円/中小600(400)円 * ()内は前売・20人以上の団体料金
*前売券は主要プレイガイド、コンビニエンスストアで販売。当館では購入できません。



ジュアキム・ミール《貧しき者の大聖堂》1898年
共に カタルーニャ美術館蔵 © Museu Nacional d'Art de Catalunya



アウゼビ・アルナウ《バルセロナ》1897年

6月29日(土) ▶ 9月1日(日)

奇蹟の芸術都市バルセロナ展

カタルーニャ近代美術の精華

スペイン、カタルーニャ自治州の州都バルセロナは、世界遺産サグラダ・ファミリアの設計者アントニ・ガウディやパブロ・ピカソなど、多くの偉大な芸術家を生み出した「芸術」の都市として世界中の人々に愛される世界有数の国際都市です。本展覧会は都市の近代化が進んだ19世紀後半サルダの都市計画から、バルセロナ万国博覧会開催(1888年)を経て、スペイン内戦(1936-39年)に至るまでの約80年間に生み出された芸術文化に迫ろうとする試みです。ガウディをはじめピカソ、ミロ、ダリ―本展では彼らの仕事を核として、絵画を中心に映像資料、写真、図面、家具、宝飾品、彫刻など多様なジャンルの作品を交え、当時のカタルーニャに花開き咲き誇った芸術の精華を紹介します。

●休館日:月曜日(ただし7/15、8/12は開館)、7/16(祝)、8/13(祝)
●料金:一般1200(900)円/大高600(400)円/中小200(100)円
*()内は前売・20人以上の団体料金



池大雅《十便図》より「釣便」
1771年(公財)川端康成記念会蔵



ロダンの彫刻を眺める川端康成
撮影:林忠彦

9月14日(土) ▶ 11月4日(月祝)

生誕120年 文豪川端康成と美のコレクション展

日本人初のノーベル文学賞受賞作家・川端康成は、きわめて多彩な美術品を収集していたことでも知られています。そのコレクションは、国宝に指定される浦上玉堂《凍雲節雪図》と池大雅・与謝蕪村《十便十宜図》をはじめ、土偶や仏像などの古美術から東山魁夷・古賀春江・草間彌生といった近現代日本美術、ロダンのピカソといった西洋美術にまで至る幅広いものです。本展では、川端が収集した美術品を紹介しその審美眼を探るとともに、生前交流のあった文豪たちの書幅や書簡、愛用品等の資料も公開し、川端のひととなりにも迫ります。川端生誕120周年と姫路市制130周年を記念し、当館および共催・姫路文学館の2会場にて同時開催します。

●休館日:月曜日(ただし9/16、9/23、10/14、11/4は開館)、9/17(祝)、9/24(祝)、10/15(祝)
●料金:一般1400(1120)円/大高600(480)円/中小300(240)円
*()内は前売・20人以上の団体料金



クロード・モネ《ひなげし畑》1890年
共に ストラスブール近現代美術館蔵 ©Musée d'Art Moderne et Contemporain de Strasbourg / Photo Musées de Strasbourg



ヴィクトール・ブラウネル《求婚者》1955年

11月12日(火) ▶ 1月26日(日)

國富奎三コレクション受贈25周年記念 ストラスブール美術館展 印象派からモダンアートへの眺望

フランス北東部アルザス地方の主都ストラスブールはドイツ、フランスの国境沿いに位置し、その地理的環境から独自の文化を育んできました。同館は欧州の中でも19世紀から20世紀の西洋美術の潮流に沿った豊かなコレクションを形成しています。本展は、近代絵画の祖であるコロドー、クールベなどの写実主義からモネ、シスレーをはじめとする印象主義、そしてピカソ、ブラックらのキュビズム、カンディンスキーの抽象絵画など、厳選された約90点を展覧しフランスの近現代絵画の主要な流れを辿ります。なかでもルノワールのデッサン《母性》(1885年)は、同時期に描かれた当館所蔵のインクによる同主題作品との対比を御覧いただく貴重な機会となります。

●休館日:月曜日(ただし1/13は開館)、1/14(祝)
●料金:一般1200(900)円/大高600(400)円/中小200(100)円
*()内は前売・20人以上の団体料金

チームラボ 世界は暗闇からはじまるが、それでもやさしくつくしい

奇蹟の芸術都市バルセロナ展
カタルーニャ近代美術の精華

生誕120年 文豪川端康成と
美のコレクション展

ストラスブール美術館展 印象派からモダンアートへの眺望

2019 3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

2020 1

2

3

日本画に見る四季

ベルギー近代美術の諸相

姫路市民美術塾

言葉とイメージの世界

.. (休館中) ..

國富奎三コレクション 近代フランス絵画 モネからマティスまで

学校連携プロジェクト展

第74回 姫路市美術展

Collection Gallery [コレクションギャラリー] ●料金:無料



松岡映丘《道成寺》(右隻)1917年

4月20日(土) ▶ 6月16日(日)

日本画に見る四季

春夏秋冬、四季の気候がはっきりした日本では、古来より絵画で季節感を表現することが好まれてきました。描かれた景色・風物・動植物などを通して折々の情趣が感じられる作品を、日本画を中心に館蔵品より紹介します。



レオン・フレデリック《チョコ売り》1887年

6月22日(土) ▶ 9月1日(日)

ベルギー近代美術の諸相

ベルギーはかつてフランドル地方と呼ばれ、油彩画の技法を発達させるなど、西洋美術の中心地でした。19世紀にはフランスの影響のもと、さまざまな表現が生み出されます。光をとらえようとした印象派、心の世界を描いた象徴主義、社会の実情を描いた写実主義など。さまざまなベルギー近代美術の諸相を所蔵品で展覧します。

9月7日(土) ▶ 11月4日(月祝)

姫路市民美術塾

平成25年度に始動した、教育普及型展覧会。新たな視点で所蔵品に出会うことで、よりクリエイティブで楽しい鑑賞を体験する「場」としての展覧会です。「?ボックス」(来場者と学芸員の交流ツール)や、めくって読めるパネル、作品の意外なエピソードが書かれた「美術もの知りシート」など、鑑賞の充実をめざしたオリジナルのしかけも設置します。



ルネ・マグリット《マザーグース》
(版画集「マグリットの落とし子たち」より)1968年

11月9日(土) ▶ 1月26日(日)

言葉とイメージの世界―「マグリットの落とし子たち」より―

版画集「マグリットの落とし子たち」はマグリットの没後の1968年に出版されました。本作は友人であるシュルレアリストの詩人ルイ・スキュトネルの詩とともに刊行された12点のポトフォリオです。本展では完訳された詩とともにその装丁やマグリットの作品を紹介します。20世紀を代表するシュルレアリストの文学と美術の出逢いをとお楽しみいただきます。

*展覧会は内容等を変更する場合がございます。最新の情報は当館ホームページをご覧ください。